

創立昭和28年1月8日



TANABE ROTARY



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

District 2640 田辺ロータリークラブ Club Weekly Bulletin

2011-12年度
国際ロータリーテーマ

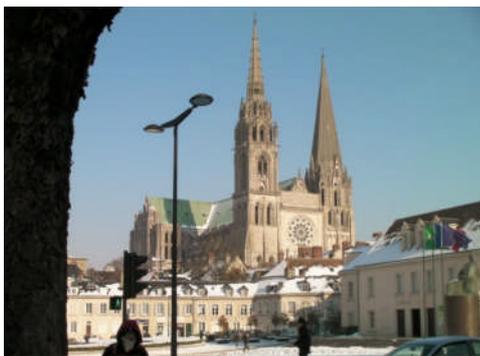
「こころの中を見つめよう
博愛を広げるために」
-Reach within to Embrace
Humanity-
カルヤン・パネルジ-
RI会長
大澤徳平ガバナー

4つのテスト (FOUR WAY TEST)

- 言行はこれに照らしてから
(1) 真実かどうか
(2) みんなに公平か
(3) 好意と友情を深めるか
(4) みんなのためになるかどうか

例会日 木曜日 12:30
例会場 紀伊田辺シティプラザホテル
会長 伊賀久記
幹事 福本雅彦
会報委員長 柏木壽夫
http://tanabe-rc.com/

承認 昭和28年3月2日
事務所 〒646-0031
田辺市湊1073-63
TEL 0739-24-2002
FAX 0739-26-0264
mail tanabe-rc@helen.ocn.ne.jp



「シャルトル大聖堂」撮影 寺前則彦会員

●司会者

伊賀久記会長

●ソング

君が代 高校三年生

●ゲスト

ナギサビール株式会社
代表取締役
眞鍋和矢様

●ビジター

原田 武俊 君(田辺はまゆうRC)

本日のプログラム 3/8

新会員卓話

松田 清 会員

次回のプログラム 3/15

アーティスト

ジョージ☆池添 様

出席報告

	第2908回	第2909回	第2910回
会員数	84名	84名	84名
出席規定免除会員数	10名	10名	10名
出席計算会員数	81名	82名	名
出席者	64名	63名	69名
出席率	80.00%	78.75%	84.15%
メイクアップ	6名	7名	
修正出席率	86.42%	85.37%	

お祝い

会員誕生日 新井、近藤、玉井
配偶者誕生日 川内美栄(潔) 市木延子(栄之助)
鎌塚久美子(晋作) 野村美千代(利治)
結婚記念日 野村富、小川、川内
皆出席 濱口(4年) 横田(6年) 白井(20年)
在籍表彰 白井(20年)

ニコニコ箱

☆眞鍋和矢様に卓話謝礼をニコニコ箱に頂きました。
☆ナギサビールの眞鍋様、ようこそ、本日は卓話宜しく
お願い致します。……濱口、新井、柏木、大木、長井
☆原田先生、ようこそいらっしゃいました。……中松
☆西嶋副幹事、宜しく申し上げます。伊賀、植田英、中松
☆本日、2回目の幹事代理です。1回目よりは少し慣れま
した。……西嶋
☆在籍表彰20年を頂きました。……白井
☆田辺はまゆうロータリークラブ創立20周年式典で感
謝状を頂きました。……吉田透
☆先日、ゴルフプレー-half途中で道具を2回忘れ、後続
の岩本君達に介護を受けました。後期高齢者グルー

プに要注意。……渡部
☆お久しぶりです。……川内
☆柏木さん、先週忘れたカバンを届けて頂き有難うござ
いました。……野村富
☆やっと梅の開花が始まりました。……中田
☆田辺高校の卒業式に出席してきました。3年間務めた
同窓会長もこれでお役目終了しました。……玉井

お知らせ

会長報告

- ・本日、幹事が欠席の為、西嶋副幹事が務めます。
- ・3月は、識字率向上月間です。
- ・2月25日田辺はまゆうロータリークラブ創立20周年記念式典が行われました。村上パストガバナー、吉田透会員、会長・幹事で出席してまいりました。田辺はまゆうロータリークラブより礼状が届いています。

幹事報告

- ・近隣クラブ会報、J Cニュースが届いていますので回覧します。

委員会報告

野球部

新井康司会員

- ・第29回全国ロータリー野球大会の日程表が届いています。少しご相談したい事がございますので野球部の方は、例会終了後お残り下さい。

親睦活動委員会

新藤整市委員長

- ・3月18日(日)の春の会員家族会ですが、たくさん申し込んで頂きましたのでバス・なにお探検隊クルーズを2台チャーターしました。まだ座席数に余裕がありますので、申込頂きますようお願い致します。



『創業の精神』

ナギサビール株式会社
代表取締役

眞鍋和矢様

僕の苗字は眞鍋ですが、祖父が「渚」という旅館、父が「なぎさ」という理容店を営んでいたので、

近所の人からは、「渚の子」と呼ばれてました。だからこの屋号の渚に対して強い想い入れがあり、いつかこの屋号で何か商売をしたいと常々思っていました。

昭和62年、僕が20歳の頃、京都駅近くの、大正時代の酒蔵を改装した居酒屋で、初めてエビスビールを見た時、「京都にはこんなカッコいい高級なビールがあるんや」と感動しました。自分の生まれは和歌山県の観光地「南紀白浜」で、有名な白砂の「白良浜」があり、実家の屋号が「渚」なので、白浜の海辺にマッチした「ナギサビール」ってできたら絶対に売れると思ひ、「ナギサビール」というブランドを作りたいと思いつきました。屋号にぴったりの仕事だと思いました。その後、ナギサビール創業を目指しながら、休まず長時間働いて資金を貯め、これから創業しようという平成8年、29歳の時に、「工場を作ると同じくらの運転資金も用意できんのだったら、そんな大それたことをしたらあかん」と、母の猛反対にあいました。母は、「僕が創業することを諦める説得をしてほしい」と叔父に依頼しましたが、僕がやりたいことを必死で話しているうちに、「やりきれ！」と叔父は出資までしてくれ、なんとか創業にこぎつけました。

まず、市販の手造りビールのキットを使って試作を始めました。しかし、初めて出来たビールは、期待外れで臭くてまずくて、とても飲めたものではありませんでした。「やっぱりビールって簡単には造れんのかなあ」と諦めかけましたが、思い切って販売元に「説明書通り造ったビールはまずくて飲めなかった」と相談すると、「本当は法律でビールを手作りしてはダメなので、おいしいビールの造り方を公にすることは出来ないんです。」と言われました。その代りに、有志でおいしいビールの造り方を研究している人達を紹介してくれました。その後、ある程度おいしいビールを造れるようにはなりましたが、まだまだ納得できるものではありませんでした。

創業を決意してからも、アメリカの西海岸や東海岸に視察で行った時、いろんな種類のビールを片っ端から飲んでみましたが、その時の味を日本で再現しても、世界で一番味覚に敏感な日本人には、甘ったる過ぎたり、苦すぎたり、香りが強すぎたりしてちょっと合わんやろなあと思いました。しかし、ナショナルブランドと同じような味のビールを造っても意味はないし、それよりも味わい深く、かつ飲みやすい日本人好みのスタイルのビールを、新たに開発しないといけないと思ひ、日本人が納得するまるやかで優しい風味のあるレシピの創作に挑み、平成9年6月ペールエールとして、初めて出荷することが出来ました。

今後も、常に現状の味に満足せず、もっとおいしくなるにはどうしたらいいかを考え続けて、麦芽の味わい、ホップの苦みや香り、発酵由来の香気成分等、レシピは無限大に変えていけるので、よりまるやかで、より優しい風味のある「ナギサビール」造りに励んで、



お客様においしさと感動を与えていきたいと思ひます。

ナギサビールのある南紀白浜は、「日本の渚百選」に選ばれた白良浜という美しい砂浜があり、円月島や千畳敷、三段壁などの景勝地、温泉、バンドが世界で一番たくさんいることで有名なアドベンチャー・ワールドなど、数えればたくさんの魅力的な観光資源がある町です。こんなに恵まれているのだから、もっともっと活気のある町に出来るはずですよ。

僕は高校を卒業してから、大阪・京都・神戸で働きながら生活していましたが、故郷を離れてはじめて、生まれ育った地元・南紀白浜の自然や、ゆったりとした時の流れの素晴らしさを実感し、地元をもっと活性化して、自分が生まれ育った南紀白浜に恩返ししたいと、どこかで思うようになったのでビール事業を白浜以外の場所でやろうと思ったことは一度もありませんでした。その白浜には、かつていつも人が集まる賑やかな場所だった、祖父の「渚旅館」や父の「なぎさ理容所」がありました。その屋号を引き継いだ当社も、自らのビール事業やレストラン事業をとおして、南紀白浜にもっと沢山の人が集まってもらえるよう、社員全員が一丸となって取り組み、元気な町づくりに貢献していきたいと思ひます。

僕は、ビールの味がおいしいのは当たり前として、ナギサビール自体の姿形から醸し出す雰囲気や、他どのメーカーよりも大切にしていきたいと思ひます。たとえば、ラベルのデザインには、白浜の半島の地図（宝探しの地図のイメージ）を施し、販売開始の年号の前には、アメリカの海洋環境アーティスト・ワイランドさんの作品名「First Breath」を使いました。この作品は、生まれたばかりのクジラの赤ちゃんに、早く呼吸をさせてあげようと、お母さんクジラが自分の顔面を使って、赤ちゃんクジラを海上まで押し上げているシーンが描かれています。ビール酵母菌の発酵も一種の呼吸みたいなものだし、当社も多くのいろんな方々に支えられ、押し上げて頂けたから今があるんだと思ひ、この言葉を選びました。創業の頃は、ナギサビールを商品化したいばかりで、営業やパッケージングのことまで頭が回っていませんでした。「これではあかんあかん」と思ひ、何かヒントはないかと本屋さんへ行くと、偶然にもその時、田舎の本屋さんにある筈のない葉巻特集の本があり、「これや、これしかない」と思ひ買いました。じっくり読んでみると、葉巻の葉っぱもビールのように発酵や熟成工程があり、イメージは地ビールに近く、レトロで高級感もありお洒落でした。僕は、煙草は吸わなかったのですが、パッケージデザインを見たくて、いろんな葉巻を買ひ集めました。届いた葉巻の箱は、どれもお洒落な木箱や紙箱に入っており、厳封シールを破いて箱を開けると、そこには茶色い葉巻が並んでいましたが、僕にはそれが茶色いビール瓶に見えました。それがヒントになって、ギフトパッケージをつくる際、ダンボール箱をあたたかも木箱に見立て、ビール瓶を葉巻に見立て、1ドル札のデザインを白浜の原産地証明のような厳封シールに変更し、それを破らないと箱が開けられないようなパッケージにしました。

このように個人的な思ひ入れで、遊び心も加えて商品作りをしておりますが、これからはお客様の疲れを癒したり、「また頑張ろう！」と感じてもらえるような楽しい一時を演出でき、もっとストーリー性もあるおいしい「ナギサビール」を造っていききたいと思ひます。